

1. 就職環境について

(1) 2022年度(2023年4月入社)就職状況について

2022年度卒者の就職活動は、コロナ禍で採用を見送っていた企業の採用活動が本格的に復活するなど、全般的に学生優位の状況でした。オンラインを活用した選考も定着し、採用活動は新たなフェーズに移行したといえるでしょう。大卒者の有効求人倍率は、1.58倍(昨年度比0.08ポイント増)で2年連続上昇している一方で、エントリーシートを提出したり、面接を受けたりという学生の活動量は全般的にやや減少傾向にありました。このため各企業の採用予定数における充足率は昨年より低くなっており、秋以降に採用活動を継続する企業からの求人は昨年より増加しました。

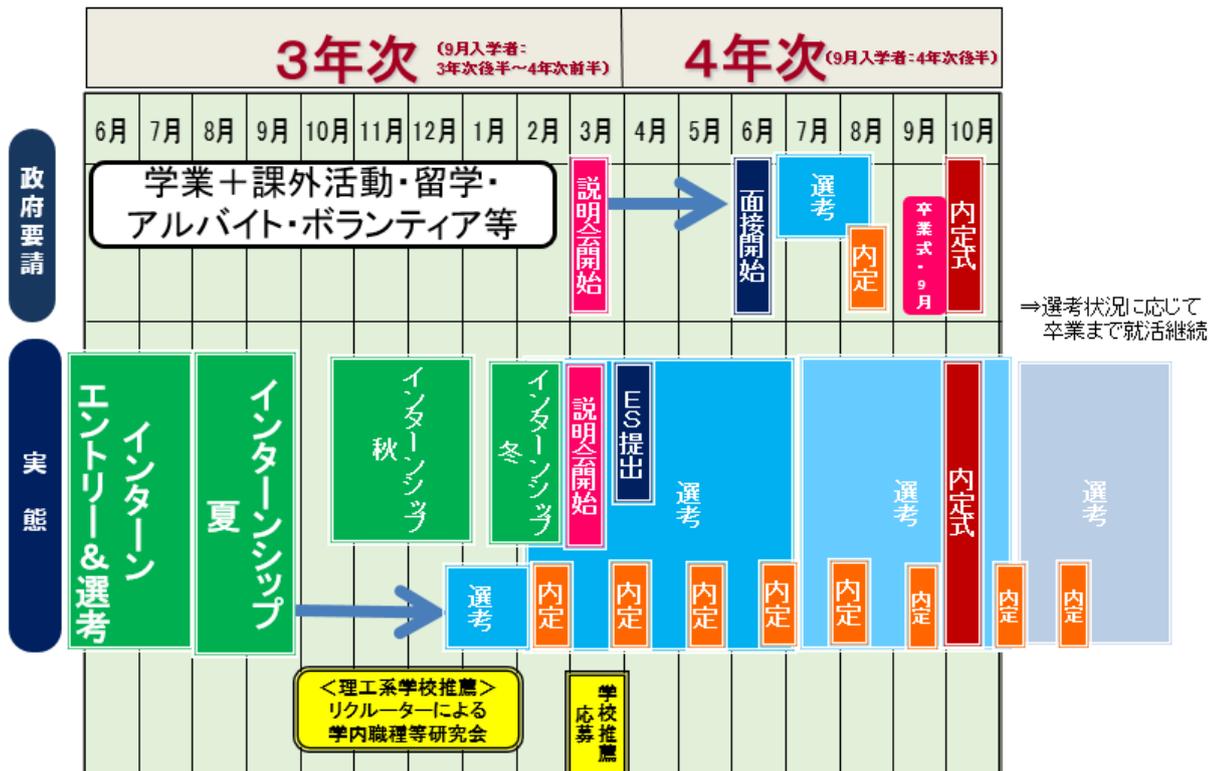
これらは一見学生優位の状況のように見えますが、採用人数を確実に充足させるために企業の採用活動は一層早期化・複雑化する傾向にあります。夏のインターンシップから早期選考に呼ばれ、3年生の冬から年明けにかけて早々に内々定をもらう学生は増加していますが、本学学生が最終的な就職先から内定を得た時期は4年生の6月が最多でした。本命企業の選考が終わらないのに内定先から内定承諾を迫られるなど、採用活動の早期化・長期化による肉体的・心理的負担を覚えた学生も多くあったと感じています。また十分な準備が整わないまま就職活動が始まり、内定をもらってから「最終的な判断がこれでよかったのか」と迷う学生からの相談も増加しており、本格的な活動開始前までに、進路選択において何を重視するのかなど、就職活動の軸をある程度定めておくことが一層肝要になってきています。

なお、進路決定届を提出した学生の進路満足度(就職した学生のうち「進路に満足」「やや満足」と回答した割合)は92%で、昨年度の89%から微増しています。

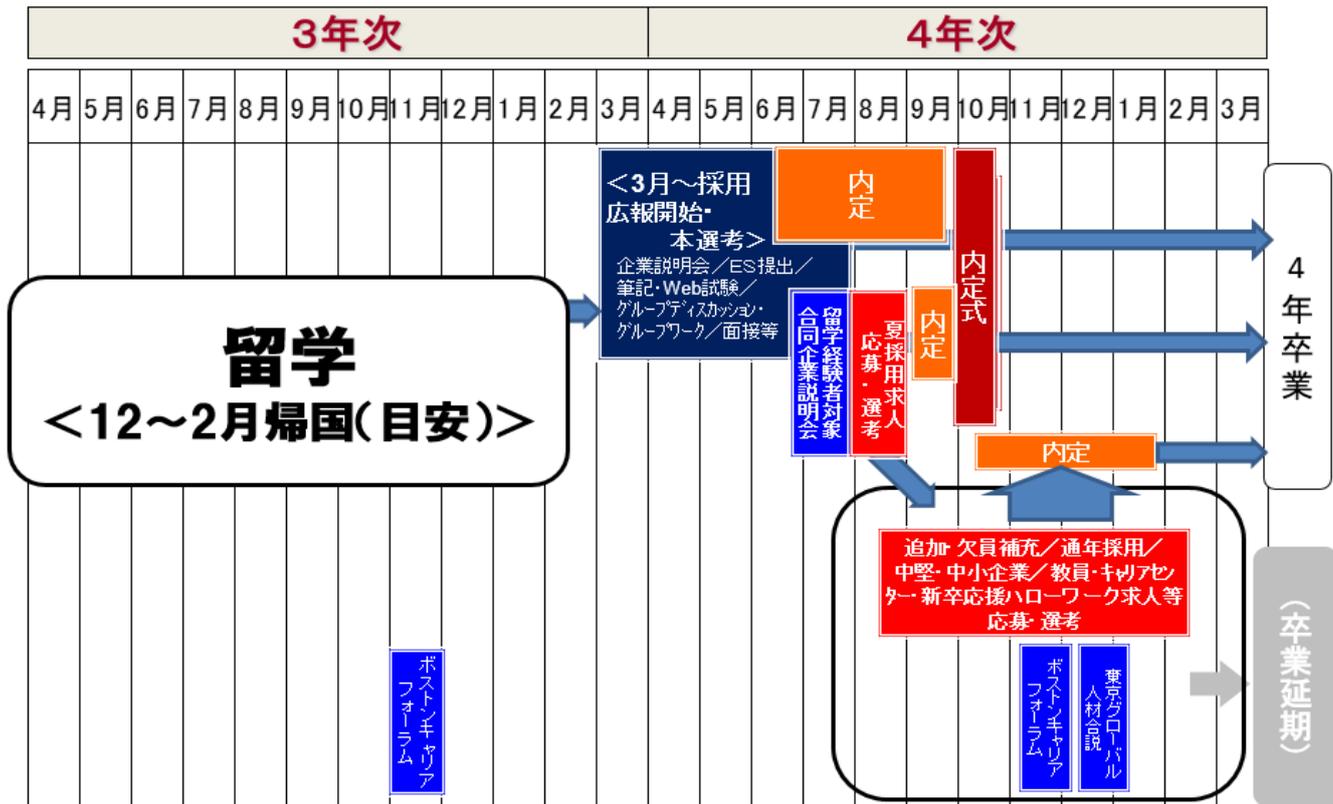
(2) 2023年度(2024年4月入社)就職活動のスケジュール

政府が企業・経済団体等に要請した就活・採用活動日程は前年度と変わらず、広報活動開始が2023年3月1日以降、採用選考活動開始が6月1日以降ですが、3年次の夏から冬にかけてのインターンシップ参加者へのアプローチなど、採用活動の早期化、複線化の傾向にあります。

■ 一般的な就職活動のスケジュール

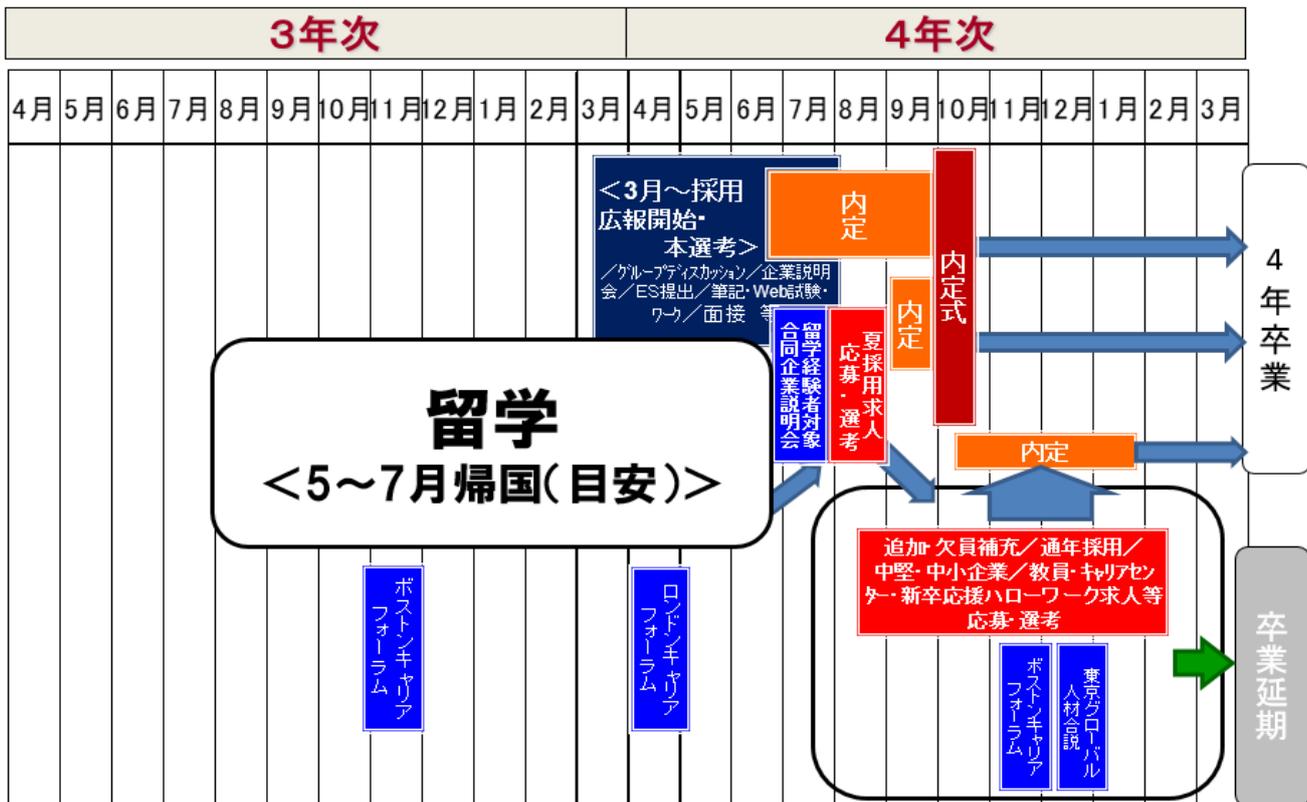


■ <冬帰国> 留学経験者の就職活動スケジュール



*一部、海外からオンラインでできる活動あり。*帰国前にオンラインで冬インターンに応募→帰国後に参加が可能。*本選考の開始に間に合う。

■ <夏帰国> 留学経験者の就職活動スケジュール



*渡航前にインターンシップへの参加が可能。*一部、海外からオンラインでできる活動あり。*帰国前にオンラインでESの提出が可能。

留学先から参加できるインターンシップや説明会もあります。また帰国前にオンラインでインターンの申し込みをしたり、エントリーシートを出したりすることも可能です。

(3) 2023年度(2024年4月入社)採用・就職活動の動き

①企業の動き

複数の就職情報会社の調査によると、採用を「増やす」とした企業は「減らす」とした企業を上回り、新卒採用の意欲は引き続き堅調という見込みです。

政府要請をしり目に、採用活動は早期化しており、3年生の終わる1月～3月頃に内々定を出す企業は増えるの見込まれます。多くの企業が6月までに内々定を出し終えたいと考える一方、採用予定数が充足せず、7月以降も採用活動が長引くと予測している企業も少なくありません。昨年7月以降にキャリアセンターに届いた求人は、年間求人数全体の約46%でした。この中にはいわゆる大手企業も含まれており、今年の採用活動はますます「早期化」「長期化」「複線化」の傾向にあると予想されます。諦めずに活動することも大切です。

②学生の動き

㈱ディスコの調査によれば、4月上旬時点の一人当たりのエントリー社数の平均は 21.9 社(前年比-0.7社)。内定をもらっている学生は52.9%と昨年の46.5%に比べて6.4ポイントの増加。一昨年の38.2%に比べると14.7ポイントも増加しており、採用活動は年々早いペースで進んでいると考えられます。一方、昨年度最終的に入社を決めた企業から内定を得た時期は6月が最も多く、内定を得ながらも引き続き就職活動を継続する学生は多いと見込まれます。また昨年同様、学生がインターンシップやワンデー仕事体験等に参加した割合は 7割ほどで、インターンシップから早期選考に呼ばれる傾向は年々強まっています。しかしながら、インターンシップに参加していない企業から内定をもらったり、インターンシップの選考には落ちたものの、本選考で内定を得たというケースも少なくありません。一般にインターンシップに参加できる人数は採用数よりも少なく、本選考とは選考基準も異なるため、選考型のインターンシップに落ちたことは、本選考にはほぼ影響しないと考えてよいと思います。さまざまな事情でインターンシップをうまく活用できなかった場合でも、本選考に向けて態勢を立て直すことは十分可能です。

③今後の就職活動と課題

インターンシップへの参加が選考に結びつくケースが多いことから、学生は3年次の時点でインターンシップに参加した企業を中心に就職活動を組み立てる傾向があります。このため早期に業界や企業を絞り込みすぎて、途中で持ち駒がなくなってしまうケースがあります。キャリアセンターでは、上智学生を積極的に採用したい企業の合同業界説明会やOBOGとの交流会を企画しています。実際に選考が始まってしまうと、業界や企業を研究する余裕がなくなりますので、大学の企画するこういった説明会を有効に活用し、効率的に視野を広げておくことをお勧めします。

また、昨年は複数企業から内定をもらったものの、進路を決めかねて、内定辞退を引き延ばしトラブルになったという相談が複数ありました。結論をいわずに引き延ばすのではなく、不安や疑問点は内定先企業に早めに確認し、納得のいく選択をしてほしいと考えます。企業側も就職後のミスマッチを未然に防ぐため、内定者の相談にしっかりと向き合いたいと考えています。早期の、双方納得の上での内定辞退はトラブルになることはありません。一人で悩まず、採用担当者へ相談してみましょう。キャリアセンターの個別相談も利用してください。

(4) 納得のいく内定を得る学生の特徴

希望する企業から内定を獲得した学生の特徴は、「自分の言葉で、自分自身のことをしっかりと伝えられる」点にあります。ウェブサイト等で情報があふれている昨今は、ノウハウ本や内定者の発言を参考にした、似通った学生の回答が多く、学生の実際の姿を企業側が見極めにくくなっているのが現状です。そうした中で、いきいきと具体的に自身の経験や将来像を語る学生が評価を受ける結果となっています。

実際の就職活動においては、「イメージや知名度」での業界・企業選びではなく「何がしたいのか」または「何ができるのか」という自分軸による考えを普段から持つことが大切になります。就職活動のためだけではなく、入学から3年次の夏休

みまでの間に目的を持って勉強、サークル、アルバイトなど何かひとつでも真剣に取り組むことが大切です。こうした経験から成長と自己理解、そして、主体的かつ積極的に就職活動に取り組むための力が培われます。

2. ご家族の接し方について

ご家族の立場から「こんな人生を歩んでほしい」という思いは必ずあると思います。しかし、学生はそれぞれ大学生活などの中から学生自身の価値観を育み、その答えを就職活動において見つけ出そうとしています。

就職活動は、これまでの学生生活とは全く異なり、長期にわたり不安と緊張の連続の環境におかれます。当然のことながらご家族の発言は大きな影響力を持っています。それが学生の中で固まりつつある価値観と相反する場合には、学生の自信を削ぎ、方向性を見失って就職活動を進められなくなることもあり得ます。

「内定」は人生のゴールではありません。就職してからの長い人生をいかに過ごしていくかが大切で、その人生は学生自身が切り拓いていくべきものです。学生自身が自分で考え、選び、自分で納得した進路を見つけるという経験は、その後の人生の選択の場面で大きな支えとなるはずで、就職活動を通じて、学生は大きく成長します。「困難を取り除く」という形のサポートではなく、その成長過程を「見守る」形のサポートを心がけていただき、最終的には学生自身の決断を尊重していただきたいと思います。

(1) 就職活動中の学生の声

2023年3月に卒業した学生を対象に実施したアンケートから、ご家族との関わりに関する箇所をご紹介します。

① 家族の言動・行動で、「止めてほしい・困ると思ったこと」

- ・「今日はどこ受けるの?」「結果はいつくるの?」と全てのスケジュールを確認したがること
- ・勝手に自分が受ける業界や職種を決められること
- ・周りの学生と比べること
- ・「公務員受けないの?」「家に帰ってこい」としつこく言われたこと
- ・zoom面接中に部屋に入ってこられたこと
- ・就活に対するイメージがアップデートされていないこと。時代遅れの誤った情報を言ってきたこと
- ・『大企業＝最も良い就職先』という考え
- ・「就活は上手くいっているか」「内定取れそうか」と心配されたこと。不安を煽らないでほしい

② 家族の言動・行動で、『嬉しく感じたこと、感謝していること』

- ・信頼して何も言われなかったこと
- ・zoom面接中に静かにしてくれたこと
- ・最終的に自分が選んだ道を応援してくれたこと
- ・失敗・緊張している時に励ましてくれたこと
- ・「やりたいことができたらいいいね」と応援でも批評でもない感想をよく言ってくれたこと
- ・結果はいつ?どこ受けたの?などと聞かれなかったこと
- ・考えを否定せずに一緒に将来を考えてくれたこと
- ・服装の相談に乗ってくれたこと
- ・Yシャツにアイロンをかけてくれたこと
- ・新卒就活が全てではないから、気負い過ぎないでという言葉
- ・卒業までに就職先が決まれば良いとゆったりと構えてくれたこと
- ・応募を悩んでいる企業について、客観的な視点から意見をもらえたこと
- ・社会人目線からのアドバイス

(2)コミュニケーションに困難を抱える学生について

企業の採用選考は面接などコミュニケーションを中心に行われることが多いため、メンタルヘルスに問題のある学生や発達障害のある学生は対応に苦慮することが多いようです。そのため、キャリアセンターでは学生やご家族・保証人からのご相談があれば、障害者手帳の有無にかかわらず専門の担当が支援を行います。まずはキャリアセンターへご相談ください。

3.キャリアセンターの支援体制

(1)キャリアセンターの支援方針

キャリアセンターでは、以下の方針に基づき支援を行っております。

- 1.学生が主体的に自らの進路を考え、行動するための機会と情報を提供し、豊かな人間形成と持続的なキャリア形成を支援する。
- 2.多様な学生に配慮し、それぞれの個性や能力を生かして社会に貢献できるよう、ひとりひとりの状況に合わせた支援を行う。

(2)キャリアセンターで受けられるサポート

①個別相談

キャリアセンター職員及び外部の専門アドバイザーが、学生からの就職や進路についての様々な質問・相談をオンライン・対面で受け付けています(1回 40分。事前予約制)。

例年、延べ5,000名の学生が個別相談を利用しています。

②就職支援ガイダンス

就職活動を行う上での基本事項やポイントを伝える「総合就職ガイダンス」をはじめ、「採用試験対策セミナー」や「業界研究セミナー」等、就職活動時期に応じた様々なプログラムを年間を通して実施しています。また「公務員」「教員」「留学生」「留学希望者」「技術職」など、対象者別の説明会も開催しています。

③ OB・OG 情報をはじめとした各種情報提供

キャリアセンターでは各企業・団体から提供いただいた卒業生名簿を設置しています。また、情報検索用のPC、内定者の就職活動体験報告書、各種書籍、新聞、経済誌等の閲覧も可能です。

④ WEB キャリアセンター

求人票やインターンシップの募集など企業からの求人情報のほか、キャリアセンターからのお知らせや個別相談、ガイダンスの申し込みなど、キャリアセンターに関するすべての情報の在校生専用のポータルサイトです。過去に開催されたガイダンスのオンデマンド動画の視聴もできます。